集団づくり部会

Ⅰ．研究の概要

１．研究課題

「集団と個人が相乗効果を得ながら向上していくために、子どもたちの活動でどのような工夫が考えられるか」
「さまざまな集団の中で生き生きと活動するためには、どのような実践や工夫を取り入れるべきか」

２．研究内容

【研究内容１】
児童会・生徒会・小中連携（小・中）
①日常の児童・生徒会活動
②集会活動の企画
③小中連携事業

【研究内容２】
学級学年経営（小）
①日常活動（班・当番・係・音楽等）
②行事に向けての学級としての取組
③集団における個人の育成
④エンカウンター
⑤Ｑ－Ｕ
⑥学年・学級での自治的活動

【研究内容３】
学級学年経営（中）
①日常活動（班・当番・係等）
②行事に向けての学級としての取組
③集団における個人の育成
④エンカウンター
⑤Ｑ－Ｕ
⑥学年・学級での自治的活動

【研究内容４】
表現・遊び・ものづくり（小・中）
①行事や集会におけるレクリエーション
②劇・音楽・踊りなどの表現活動
③集団遊び

３．研究方法

（１）交流計画

研究内容についての実践例・失敗談などを交流し、「さまざまな集団の中で、子どもたちが生き生きと意欲を持って活動するための自主的・主体的な取組には、どのような実践や工夫を取り入れるべきか」についての研修を深める。

（２）分科会構成

第１分科会　児童会・生徒会・小中連携（小・中）
＜研究キーワード＞日常の児童・生徒会活動、集会活動の企画、小中連携事業

第２分科会　学級学年経営（小）
＜研究キーワード＞日常活動、行事における学級としての取り組み、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動

第３分科会　学級学年経営（中）
＜研究キーワード＞日常活動、行事における学級としての取り組み、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動

第４分科会　表現・遊び・ものづくり（小・中）
＜研究キーワード＞行事や集会におけるレクリエーション、劇・音楽・踊りなどの表現活動、集団遊び

Ⅱ．実践研究の経過と成果

１．実践研究の経過

（１）部会役員研修会による研究経過

５月２１日　第１回部会役員研修会

研究計画の概要の確認

６月　４日　第２回部会役員研修会

今年度の課題部会研究協議会の提言内容について

９月１７日　第３回部会役員研修会

課題部会研究協議会の運営について

１０月２３日　第４回部会役員研修会

研究の成果・課題のまとめと次年度研究計画について

１２月１５日　第５回部会役員研修会

次年度の研究計画について

（２）部会役員研修会での研究成果

・コロナ状況下で、どう研究を進めていくかを検討した。

・レポートの回収方法、アンケートの実施方法を検討した。

・今年度の経験を踏まえ、来年度以降の分科会運営の在り方について検討した。

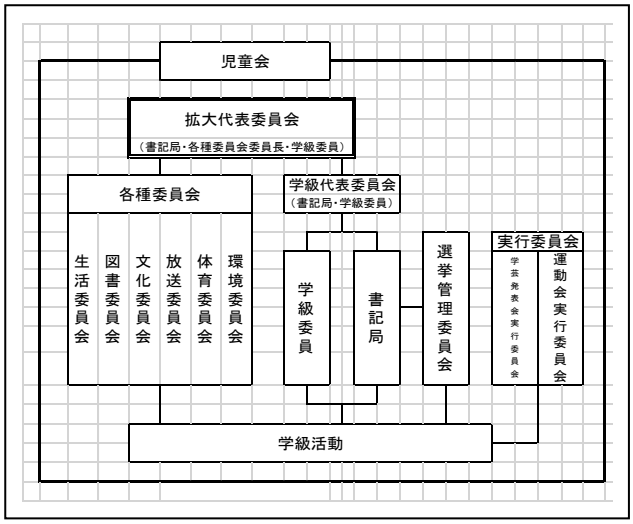
２．課題部会研究協議会での研究成果

今年度は協議会を開催できなかったので、アンケートで票数が多かったレポートを掲載する。

☆掲載レポート①　第１分科会　江別第二小学校

村岡忍・草野浩子・小笠原晴美　教諭

「江別第二小学校の児童会活動について」



〇2019 年度から児童会選挙を廃止し、各クラスからの選出となる。４年生以上で組織しており、各クラスから１名ずつ計９名で活動。

〇特色ある活動

・全校テレビ放送

→委員会活動の翌日に実施。書記局、委員長が中心になって進めている。

・あいさつ運動

→江別第二中学校と合同、小学校前であいさつ運動を行う。

・歌声集会

→月１回実施。児童会書記局が選曲、集会の進行も務めている。今年はコロナ渦のため、集会活動ができていない。合唱曲を全校放送で流し、各学級で聞いたり、軽く口ずさんだりする程度で実施している。今後どのように継続していくか、模索中。

・平和の集い

→７月実施。絵本や資料、実話をもとに平和について一人ひとりが自主的に考える。

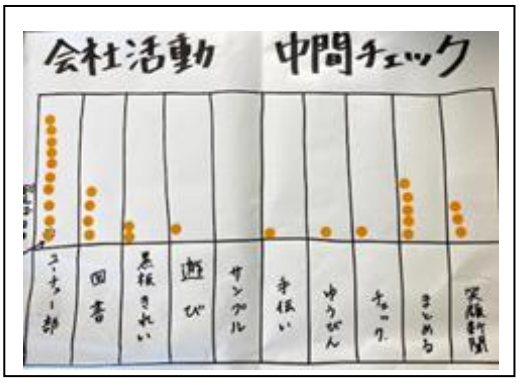
→全校千羽鶴。一人２羽の折り鶴を折り、全校で千羽鶴をつくる。「江別市平和の集い」に参加、持参。

→学校図書館司書の読み聞かせを聞いたり、学年代表児童の作文発表を聞いたりする。

→全校で「折り鶴」を歌う。

※今年度は「全校テレビ放送」で集会を実施した。８月６日が登校日だったので、広島記念式典の様子をテレビ視聴し、改めて考えさせることができた。

☆掲載レポート②　第２分科会　恵庭市立和光小学校



〇日常生活（班・当番・係等）の工夫

・係活動（会社活動）

→係活動を会社活動と呼び、年４回（前期中間、前期末、後期中間、後期末の４回）振り返りを行う。学級に会社ごとの表を掲示し、これまでの活動で最もクラスに良い影響を与えたと思う会社にシールを貼る。

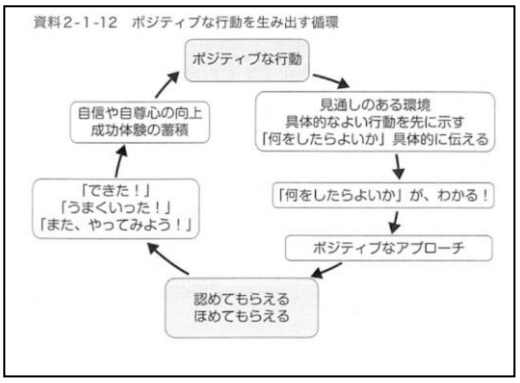
・振り返りジャーナル

→毎日担任からテーマを与えられ、それについて文章に書き表し担任がチェックする。週に一度、わかりやすく書けていたり、表現力に優れていたりする児童を１人選び「グランプリ」として表彰している。今年度はコロナウィルスの影響でコミュニケーションがとりづらい中、日々感じていることや悩みを打ち明けるツールの一つとしても活用している。さらに学級通信に掲載したり本人と伝えたりすることで、お互いに認め合う学級づくりにつながる。

〇集団における個人の育成

・星集め

→６年生の取り組みで、委員会や行事の実行委員会の３役、班長などに挑戦した数、星を書き込んでいる。



・ＰＢＩＳ（ポジティブな行動介入と支援）

→①　学級全体で望ましい行動を子どもたちで相談させた後、その内容を具体的に提示する。

②　その行動に対する評価を子どもたちが小さな紙に書き、相手の名前の下に貼り付ける作業をする。

③　望ましい行動の数の推移を全体に示す。

☆掲載レポート③　第３分科会　江別市立野幌中学校

浅見真也・酒井優・草刈快育　教諭

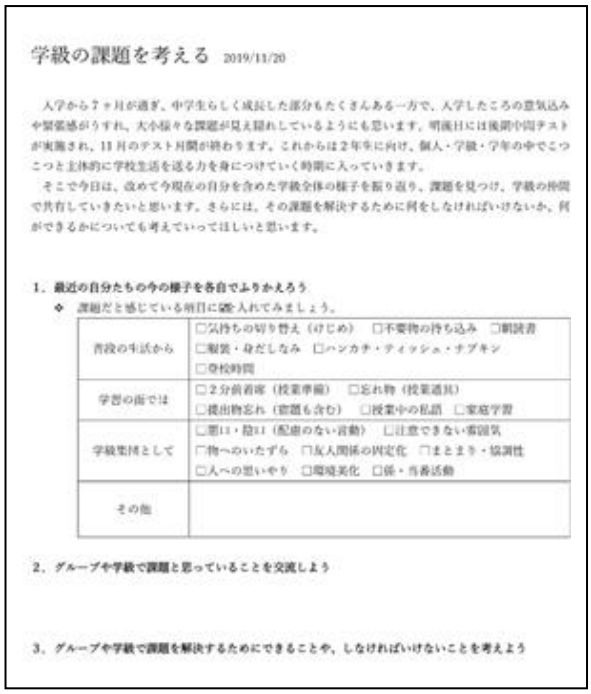
「学級交流による

集団生活向上プロジェクト」

○中学校１年生の学年全体の実践。

○入学当初の課題を少しずつクリアし、前進してきた集団であったが、学校祭終了後から明確な目標を失い、少しずつ集団の和を乱し始める言動が出てきた。

○そこで、11 月の中間テスト終了後から冬休みまでの１ヶ月間で、生活環境を自分たちの手でよりよくする取組が必要と考えた。



学級の課題を考える　2019/11/20

入学から７ヶ月が過ぎ、中学生らしく成長した部分もたくさんある一方で、入学したころの意気込みや緊張感がうすれ、大小様々な課題が見え隠れしているようにも思います。明後日には後期中間テストが実施され、11 月のテスト月間が終わります。これからは２年生に向け、個人・学級・学年の中でこつこつと主体的に学校生活を送る力を身につけていく時期に入っていきます。

そこで今日は、改めて今現在の自分を含めた学級全体の様子を振り返り、課題を見つけ、学級の仲間で共有していきたいと思います。さらには、その課題を解決するために何をしなければいけないか、何ができるかについても考えていってほしいと思います。

1．最近の自分たちの今の様子を各自でふりかえろう

❖　課題だと感じている所目に○を入れてみましょう。

普段の生活から	□気持ちの切り替え（けじめ）　□不要物の持ち込み　□朝読書 □服装・身だしなみ　□ハンカチ・ティッシュ・ナプキン □登校時間
学習の面では	□２分前着席（授業準備）　□忘れ物（授業道具） □提出物忘れ（宿題も含む）　□授業中の私語　□家庭学習
学級集団として	□悪口・陰口（配慮のない言動）　□注意できない雰囲気 □物へのいたずら　□友人関係の固定化　□まとまり・協調性 □人への思いやり　□環境美化　□係・当番活動
その他	

2．グループや学級で課題と思っていることを交流しよう

3．グループや学級で課題を解決するためにできることや、しなければいけないことを考えよう

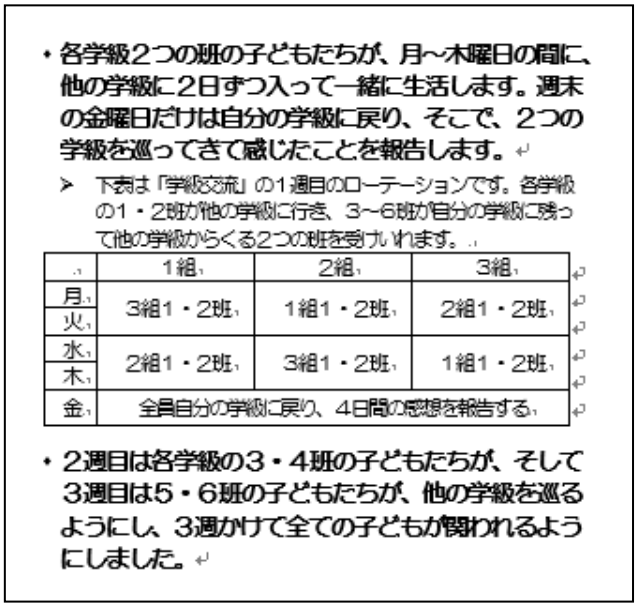
○同時に、教師も日替わりで各学級の指導に入った。普段と違って、自分たちで学級を切り盛りしなければならないという意識が芽生え、生徒の主体的な行動が増えた。

同時に、教師も謙虚に学び、積極的に変わっていく意識を持つことができた。

○次に「学級交流プロジェクト」を立ち上げ、生徒同士の交流も図った。

生徒からは以下のような声が上がった。

▸１・２組がやっていることが見れたし、勉強できたし、**３組に生かせることがたくさんあって、いい体験だった**なと思いました。これからちゃんとしていかないとダメだなと思いました。



・各学級２つの班の子どもたちが、月～木曜日の間に、他の学級に２日ずつ入って一緒に生活します。週末の金曜日だけは自分の学級に戻り、そこで、２つの学級を巡ってきて感じたことを報告します。

➢　下表は「学級交流」の１週目のローテーションです。各学級の１・２班が他の学級に行き、３～６班が自分の学級に残って他の学級からくる２つの班を受けいれます。

	1組	2組	3組
月 火	3組1・2班	1組1・2班	2組1・2班
水 木	2組1・2班	3組1・2班	1組1・2班
金	全員自分の学級に戻り、4日間の感想を報告する		

・２週目は各学級の３・４班の子どもたちが、そして３週目は５・６班の子どもたちが、他の学級を巡るようにし、３週かけて全ての子どもが関われるようにしました。

○上記の取組を経て、言動が丁寧になる、挨拶や号令の声が大きくなる、切り替えが早くなるなどの成果が現れた。

その後新型コロナウイルスによる休校期間となり、十分な取り組みが進められなくなるが、大きな問題もなくスムーズに学校生活に戻ることができた。主体的な力で環境を再生させられたことで、生徒にとって大きな成果を生み出すことができた。

○その後も「学年の歌を創る」「ダンスバトルをする」「思いやりの輪を広げるための宣言をまとめる」などといったプロジェクトを始動させた。目標を次々に設定しながら、生徒自身が成長できるような機会を与えていった。

○交流はただするのではなく、これまで創りあげてきた学年の風土を大切にしながら、「事前指導の徹底」と「子どもへの適切な評価」についてしっかりと行い、ネガティブな取組にならないように確認しながら進めた。

集団を動かすには、明確な目的や目標が必要であることが大切である。それがなければ、逆に集団を崩壊させかねない。また、適切な評価を与えることで、生徒が惑うことなく取り組んでけるようになると考える。

創り上げてきた学年の風土

- ４月当初から、朝の会・帰りの会の形式や、係・班編成の仕方などはもちろんのこと、学級日誌の書式やその取り扱いまで、ほぼ全てのことを統一し、担任の個性や能力によって学級経営に差が出ないように配慮してきました。
- 学年通信を毎週出すようにし、子どもたちにも保護者にも同じように情報が伝わるようにしました。
- 何かを始めるときには学年で集まってオリエンテーションをし、いつも「学年として」その取り組を行う目的を確認したり、目標を掲げたりしました。
- 体育祭や学校祭など学級対抗になる行事においても、各学級ができるだけオープンな形で取り組み、互いの成果を称えあう雰囲気を大切にしてきました。
- 「自分が楽しいより、みんなが楽しい方がより達成感や充実感を味わえる」という経験をさせ、子どもたちに「みんなで」やることの大切さを教えてきました。

事前指導の徹底

- 担任によって子どもたちに伝えるニュアンスが変わらないように、学年集会を開いて「学級交流」を行う目的や、その方法の説明を行いました。
- すでに取り組んできた「自分たちの課題を見つめる取り組み」や「担任の交流」の中で見えてきた学年の課題を学年集会の中で確認しました。
- その上で、今回「学級交流」を行う目的は「仲間づくり」や「親睦」、「レク」ではない。ということをまず伝えました。
- 「学級交流」を行う目的は「他の学級の良さの発見」と、「自分の学級の良さの再発見」であり、「自分の学級や他の学級の粗探しや批判、序列化」ではないことも伝えました。

子どもの活動への適切な評価

- 子どもたちに、「学級交流」についての感想や反省を述べさせる時には、必ず良かった点や、今後取り入れていきたい点といったポジティブな視点をもつように指導し、自分たちにも他者に対しても極力批判的な意見は出さないように指導を続けました。
- 子どもたちに素晴らしい意見などは、学年通信に掲載するなどして紹介していきました。
- 「学級交流」によって、子どもたちに良い意味での変容が見られた時には大いに評価し、他者から学んだことを謙虚にとらえ、改善をしていこうとしている姿勢を称えていきました。

【プロジェクトを終えた生徒の声】

✧ 僕はこれらの取り組みをする前より人と話すことができたような気がします。わからないことを人に聞いたりすることができました。

✧ みんなで協力しあって物事を考えるのが大事だと思う。また、「ありがとう」を言えるようになることも大切だと思う。

✧ みんなのことを考え、人のために自分から動けるようになることが大切だということがわかりました。

✧ リーダーがいることは大切だけど、リーダーとか関係なく、誰でも素直に意見を言える環境をつくることも大切だと思います。常にまわりのことを考えて行動します。

☆掲載レポート④　第４分科会　恵庭市立恵み野小学校

杉原　友紀　教諭　「コグトレ」

〇ポンゲーム

→レベル１　読み上げた文章の中で、動物が出てきたら手をたたく。

レベル２　読み上げた単語の中で、動物が出てきたら手をたたき、最後の単語を覚える。

〇全員じゃんけん

→レベル１　先生と同じグーチョキパーを出す。

レベル２　遅だしで、先生に勝つようにグーチョキパーを出す。

レベル３　遅だしで、先生に負けるようにグーチョキパーを出す。

〇ストップゲーム

→レベル１　音楽が流れている間、からだを動かす。音楽が止まると体の動きも止める。

レベル２　音楽が止まった後、先生に注目し打数を数える。そのあとみんなで手をたたく。

レベル３　音楽が止まった後、先生と同じポーズ。

レベル４　音楽が止まった後、先生からクイズ

Ⅲ．部会研究の成果と課題

１．成果

〇昨年度同様、レポートをデータ化した CD を配付するようにした。アンケートで肯定的な意見が多かったので、来年度も継続したい。

〇レポートの本数は、第１分科会１１、第２分科会１９、第３分科会１３、第４分科会３２で計７５本だった。例年と比べて少ないが、コロナ状況下でやむなし。

〇今年度は、学校に配布した CD に QR コードでアンケートをつけ、部会員の皆さんに回答していただいた。アンケートで肯定的な意見が多かったので、来年度も継続したい。

〇今年度はレポート集の紙媒体での配布をしなかったが、アンケートで紙媒体も必要であるという意見がなかったので、来年度も CD 配布のみとしたい。

２．課題

〇コロナ状況下で、先生方が集まってレポート交流ができなかったので、詳しいところを聞くことができなかったり、気軽に質問できないという意見があった。何らかの工夫が必要だったかもしれない。

〇レポートで生徒の顔写真が入っているものがあったが、肖像権に配慮するよう呼び掛ける必要があった。

〇レポートのデータを送ってもらうときに、PDF 化されていなかったり、C4th ではなくサイボウズで送られてきた件が数件あった。周知する方法を検討したい。

（文責　関川　元樹）